# 木股知史教授　略歴

**学　歴**

1975年３月　　立命館大学文学部文学科卒業
1979年３月　　立命館大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了
1982年３月　　立命館大学大学院文学研究科博士後期課程日本文学専攻単位修得満期退学

**職　歴**

1982年４月　　宇部短期大学専任講師
1986年４月　　相愛大学人文学部専任講師
1990年４月　　相愛大学人文学部助教授
1992月４日　　甲南大学文学部助教授
1995年４月　　甲南大学文学部教授
1997年４月　　甲南大学大学院人文科学研究科修士課程指導教授・博士後期課程科目担当

**役職委員等**

文学部日本語日本文学科主任（1997年４月～1998年３月）
文学部日本語日本文学科主任（1998年４月～1999年３月）
大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻主任（1999年４月～2001年３月）
図書館長（2000年４月～2002年３月）
大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻主任（2004年４月～2006年３月）
文学部日本語日本文学科主任（2006年４月～2007年３月）
大学院人文科学研究科長（2011年４月～2013年３月）
文学部長（2014年４月～2016年３月）
理事（２号）（2014年４月～2016年３月）
評議員（５号）（2014年４月～2016年３月）

# 木股知史教授　業績一覧

## 単　著

『石川啄木・一九〇九年』冨岡書房，1984年12月
『〈イメージ〉の近代日本文学誌』双文社出版，1988年５月
『イメージの図像学』白地社，1992年11月
『画文共鳴『みだれ髪』から『月に吠える』へ』岩波書店，2008年１月
『石川啄木・一九〇九年　新訂増補版』沖積舎，2011年７月

## 編著・共著

『読むための理論』（共著）世織書房，1991年６月
『吉本ばななイエローページ』（編著）荒地出版社，1999年７月
『近代日本の象徴主義』（編著）おうふう，2004年３月
『一握の砂／黄昏に／収穫　和歌文学大系77』（共著）明治書院，2004年４月＊「一握の砂」注釈，解説担当
『新しい短歌鑑賞第一巻　与謝野晶子・岡本かの子』（共著）晃洋書房，2005年５月＊与謝野晶子の鑑賞・解説担当
『明治大正小品選』（編著）おうふう，2006年４月
『コレクション・都市モダニズム詩誌 第９巻 昭和の象徴主義 ２』（編著）ゆまに書房，2010年９月

## 翻　訳

ジェイ・ルービン著『風俗壊乱　明治国家と文芸の検閲』（共訳）世織書房，2011年４月
＊Jay Rubin. *Injurious to Public Morals: Writers and the Meiji State*, University of Washington Press, 1984

## 研究報告書

「1900～1920年代の近代日本文学と美術の相関性の研究」『平生太郎基金科学研究報告書第４巻下』2003年３月
『回覧雑誌『密室』翻刻と解説』（全４冊）甲南大学木股知史研究室，2009年３月，科研課題番号19520176

## 論　文

「啄木における表現の獲得――明治三十五年秋の出郷をめぐって」「論究日本文學」47号，27巻36号，1979年５月
「表記の意味するもの――石川啄木「ローマ字日記」について――」「日本文学」30巻４号，1981年４月
「国家・都市・郷土――啄木と荷風の交錯について」「日本近代文学」第28集，1981年９月
「「詩人」観念の変遷――明治二十年代から三十年代へ――」「立命館文学」435・436合併号，1981年10月
「伊藤整『文学入門』覚書」「宇部国文研究」14号，1983年３月
単著
「同時代思想のなかの石川啄木――一元二面観の成立と崩壊――」「宇部短期大学学術報告」20号，1983年７月
「明治三十九年の〈新体詩〉――中央公論「現時の新体詩の価値」特集を中心に」『日本文学伝統と近代』和田繁二郎博士古稀記念論集刊行会，桜楓社，1983年12月
「〈一握の砂〉とはなにか――啄木短歌論序説」「宇部国文研究」15号，1984年３月
「写し絵・幻燈・茶番――「たけくらべ」の一齣の注釈のためのノート」「宇部国文研究」16号，1985年３月
「『一握の砂』の詩空間（一）――広告文について」「宇部短期大学学術報告」22号，1985年７月

「女とハンケチ――《イメージ》の近代日本文学誌」「日本文学」36巻１号，1987年１月
「利己か利他か――明治文学と個人主義」「立命館文学」505号，1988年３月
「「脱走と追跡のサンバ」論――メディアとしての小説」「国文学」 33巻10号，1988年８月
「藤村のロマンチシズム」『日本文学講座第10巻』日本文学協会編，大修館書店，1988年８月
「石川啄木論――詩人伝説」「国文学解釈と鑑賞」53巻10号，1988年10月
「マンガの表現構造――画像と言葉」「宇部国文研究」20号，1989年３月
「中原中也論――遅れる言葉」「国文学解釈と鑑賞」54巻９号，1989年９月
「マンガ表現論――絵と言葉の相互矛盾」『日本の文学　第７集』，有精堂出版，1990年６月
「松本侑子――〈女〉というアイデンティティ」「国文学解釈と鑑賞・別冊　女性作家の新流」1991年６月
「手記としての『ノルウェイの森』」「昭和文学研究」24号，1992年２月
「狂人の手記――『野火』をめぐって」『文学における狂気』笠間書院，1992年６月
「制度と無垢の間――日本近代文学における子供」『日本文学史を読む　第５集』有精堂出版，1992年６月
「コミックキャンペーン――イギリス，アメリカにおける一九五〇年代コミック寄生の動向」『子どもというレトリック』青弓社，1993年７月
「『吾輩は猫である』――理知と混沌」「国文学」39巻２号，1994年１月
「『一握の砂』の時間表現」『一握の砂　啄木短歌の世界』世界思想社，1994年４月
「夏目漱石『こゝろ』――複数一人称小説」「国文学解釈と鑑賞」59巻４号，1994年４月
「女のペルソナ――一葉日記の断面」「国文学」39巻11号，1994年11月
「〈もう一つの別の物語〉――『藪の中』をめぐって」「日本文学」43巻11号，1994年11月
「こゝろ」『 漱石　作品の誕生』（浅田隆編）世界思想社，1995年10月
「瞬間と全体――晶子・啄木と生命主義的発想」「国文学解釈と鑑賞別冊「生命」で読む20世紀文芸」1996年２月
「啄木の一首を読む――評釈のあり方をめぐって」「甲南大学紀要文学編」99号，1996年３月
「メディア環境と文学」『岩波講座日本文学史二〇世紀の文学３』岩波書店，1997年２月
「からっぽであることをうけいれるということ――『国境の南，太陽の西』」「国文学臨時増刊」43巻３号，1993年２月
「吉本ばなな『哀しい予感』論――失われた記憶の物語」「甲南大学紀要文学編」107号，1998年３月
「台所の戦士――吉本ばなな「キッチン」論」「宇部国文研究」29号，1998年３月
「「水仙の作り花」をどう読むか――『たけくらべ』の結末」「日本文学」47巻11号，1998年11月
「啄木から寺山修司へ」『短歌と日本人Ⅴ　短歌の私，日本の私』岩波書店，1999年５月
「田中恭吉のふたつの顔――文学と絵画の交渉をめぐって」『田中恭吉展図録』和歌山県立近代美術館，2000年４月
「松本清張の短編技法」「松本清張研究」２号，北九州市立松本清張記念館，2001年３月
「田中恭吉と萩原朔太郎――詩画集としての『月に吠える』」「論究日本文学」74号，2001年５月
「『みだれ髪』の画像世界」「甲南大学紀要文学編」128号，2003年３月
「惑乱するイメージ――「事ありげな春の夕暮」をめぐって」「国文学解釈と鑑賞」69巻２号，2004年２月
「夢と散文詩――啄木「白い鳥，血の海」をめぐって」『論集石川啄木Ⅱ』おうふう，2004年４月
「裏返し・石川啄木――内面のエッジへ」「国文学」49巻13号，2004年12月
「「明星」の表紙画」「甲南大学紀要文学編」138号，2005年３月
「与謝野晶子――歌の遍歴」「上方文化研究センター研究年報」６号，2005年３月
「表現としての茂吉短歌――写生と象徴の交錯」「国文学解釈と鑑賞」70巻９号，2005年９月
「志賀直哉と〈文〉の領域」『明治文芸館Ⅴ　明治から大正へ』嵯峨野書院，2005年10月
「竹久夢二『どんたく』の画像引用」「立命館文学」592号，2006年２月
「「レキシントンの幽霊」論――村上春樹の短編技法」「甲南大学紀要文学編」148号，2007年３月

「〈刹那〉をとらえる啄木短歌」「国際啄木学会研究年報」10号，2007年３月
「「明星」の色彩革命」「国文学」臨時増刊52巻７号，2007年６月
「ハイパーテクストと文学研究」「日本文学」57巻１号，2008年１月
「晶子と西欧文化――身体感覚をめぐって」「国文学解釈と鑑賞」73巻９号，2008年９月
「スケッチという概念をめぐって――画文をつなぐもの」「甲南大学紀要文学編」158号，2009年３月
「回覧雑誌『密室』と無意識の領域」「心の危機と臨床の知（甲南大学人間科学研究所紀要）」10号，2009年３月
「コマ絵，漫画，俳画――藤本寿彦氏の『画文共鳴『みだれ髪』から『月に吠える』へ』書評への批判」「甲南大学紀要文学編」160号，2010年３月
「正岡子規の画文共鳴」「国文学解釈と鑑賞」75巻11号，2010年11月
「回覧雑誌『密室』の画文共鳴：象徴主義とモダニズムの通路をめぐって」「立命館言語文化研究」22巻　３号，2011年３月
「美しい詩画集――『月に吠える』の画文共鳴」『生誕125年萩原朔太郎展図録』世田谷文学館，2011年10月
「田中恭吉の表現――底痛みのする革命」『田中恭吉ひそめるもの』玲風書房，2012年９月
「与謝野鉄幹と国家」「アナホリッシュ国文学」２号，2013年３月
「高村智恵子の表現――芸術の境界線」『アートセラピー再考――芸術学と臨床の現場から』平凡社，2013年３月
「自由画論争と『中央公論』」「日本近代文学館年誌資料探索」９号，2014年３月
「『月映』の詩歌」『『月映』展図録』和歌山県立近代美術館，2014年11月
「『近代情痴集』をめぐって――谷崎潤一郎と小村雪岱」『谷崎潤一郎讀本』翰林書房，2016年12月
「芥川龍之介『地獄変』覚書――イメージの相互関連性の視点から」「甲南大学紀要文学編」　167号，2017年３月
「『三四郎』――団扇を翳す美禰子」「甲南大学紀要文学編」168号，2018年３月
「夏目漱石『三四郎』注釈ノート――「高等モデル」と「元禄」」「論究日本文学」110号，2019年５月
「太宰治『満願』論――話法とコントについて――」「甲南大学紀要文学編」170号，2020年３月